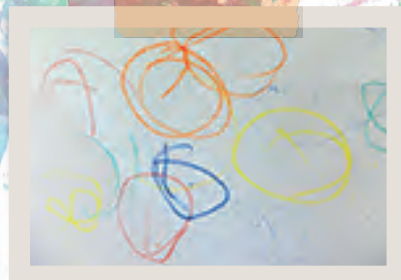
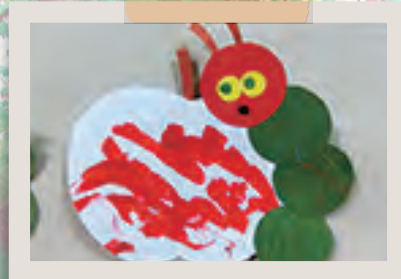


日々色々なものを作り出す
子どもたちの姿がそこにあります。



編集後記

子どもたちの日々の写真を眺めていると、ふと感じることがありました。子どもたちの眼差しは、目の前で起きていることだけを見ている、と。私たちはつい、起きた出来事を振り返って後悔したり、「こう伝えれば良かったかな」と反省したり、先のことを考えて悩んだり……。目の前の人、目の前で起きていること、その場その場を大切に過ごしたいと、「今を生きる」子どもたちの視点から考えさせられます。(広報委員 首藤)

麻布乳児院だより
第6号

令和5年7月15日発行

発行…麻布乳児院

東京都港区南麻布5丁目1番20号

編集・印刷…勝田印刷株式会社

デザイン…牛木良

Azabu infant home

麻布乳児院 だより

広報7月15日

Vol.06

〒106-0047 東京都港区南麻布5丁目1番20号

TEL : 03-3446-5361

Mail : keifuku-nyujin@nifty.com

わたしたちの「理念」

- 個性の尊重
- 心身の健全な発達促進
- 家族や地域社会との連携



好奇心のままに



- 1 子どもの声
- 2 子どもを育てる社会とは ～3人の家庭支援専門相談員から～
- 3 養育支援指導員より
- 4 子ども達の何気ない日常のひとコマ！
- 5 ボランティアの皆様へ感謝
- 6 編集後記

広報誌「麻布乳児院だより」では、社会的養護の元にいる子どもの声をお届けすることを主眼としています。社会の一員として、ともに子どもの声に耳を傾け、一緒に考えていきたいと思っています。

子どもの声

「いい夢見られるかな☆」

0歳の子どもの声

「う～う～」

えっ!?もう寝る時間なの?

でもやっぱり眠たくなって
きちゃったな。おやすみなさい…☆

子どもの様子

いつもニコニコ、満面の笑顔を見せてくれている A ちゃん。最近人見知りが見られるようになったり、ご飯を上手に食べられるようになったりと、日々色々な成長を見せてくれています。

そんな中、夜寝る時に長い時間抱っこでゆらゆらが必要だったり、寝かし付けを拒むような声を出したりする日が出てきました。その姿はまるで「寝ちゃったら、遊べないよ!」と言っているようで、A ちゃんの新たな心の成長が見えた気がしました。明日もいい1日になりますように!と思いながら、子どもたちが安心して寝られるよう、養育者もゆったりとした気持ちで1日の終わりを過ごしています。

(ヒヨコ室 佐々木)

「たのしいこと、いっぱい!!」

1歳の子どもの声

お歌って楽しいな、
ランラン♪

もっといろんなお歌、
ききたいな♪

子どもたちの様子

たまにおもちゃの取り扱いになることもあるけれど、普段から仲良しな1歳の子どもたち。

30cm 程の椅子や机、窓など、色々なところで、それぞれがつかまり立ちに挑戦しています。テレビの「いないいないばあ!」のお歌が大好きで、お歌が流れると手を動かしたり、身体を音楽に合わせて揺らしています。最近では、養育者が「いないいな～」と言うと、「だー(ばあー)」と答えてくれるようになりました。

日々の子どもたちの可愛い仕草や成長にたくさんの元気をもらっています。

(ミッキー室 原田)



日々、子どもたちがどんな風に感じているか、子どもからはどんな風に見えるか、私たち養育者は子どもたちに寄り添って「子どもの声」を感じ、探求しています。

「なんでだろう？」

1歳の子どもの声

Bくん

ボールに何か付けてる…なんだろう?
ちょっと怖いけど、近くで見てみよう

Cちゃん
車に何かついている!
わっ、開けたら穴が開いてた!
指は入らないし、これなんだろう?

子どもたちの様子

歩いたり走ったり、色々な物に自ら触ってみたり…と様々な物に興味を持って、好奇心の赴くままに行動するキティ室の子どもたち。跳ねないボールに養育者が空気を入れようとする、離れたところで遊んでいても近くに来てボールが膨らんでいく様子を真剣にじっと見つめている Bくん。

また C ちゃんは、いつもは気にせず乗っていた車に、蓋と穴が付いていることに気が付いたようで、開けたり閉めたり不思議そうにしています。「これでボールが跳ねるようになるかな」「ここにガソリン入れるんだよ」等と日々たくさんの声掛けをしながら、子どもたちの興味関心を大事にしています。

キティ室 高木



「お空の色」

2歳の子どもの声

見てー!
お空がオレンジになってる!

見てー!
もうオレンジじゃなくなった!

子どもの様子

夕食後のひととき。まだうすら明るい空を見上げていた D ちゃんは、空の色が変わっていく様子をじっと見つめていました。きれいなオレンジ色に染まったかと思うと一瞬で消えていきました。子どもたちは景色をよく見ています。本当にきれいなお空の色に、みんなで感動しました。次の日の同じ時間も、D ちゃんは空を見上げていました。

コグマ室 高木



子どもを育てる 社会とは

私が考える 一番欲しい母子支援

乳児院はお預かりするお子さんに、安全な環境での安心出来る暮らしと、月齢とその子の個性に合った関わりを通して心と身体の育ちを保障するところです。同時に、何らかの困難があるが故にお子さんと暮らすことが難しい保護者の方々を支援するところでもあります。

しかし、それができていないと現状を憂うことがあります。それは、妊娠中に相談出来る人がおらず、何の支援もなく一人で出産せざるを得ないという場合です。

妊娠という大きな心身の変化がありながら、家族も家庭も定住場所もなく、出産後の見通しも立たない状況での出産がどれほど怖くて不安か、想像を超えるものでしょう。こういう場合、無事出産となっても赤ちゃんは病院から乳児院入所となり、母は児童相談所の許可が出るまでの一定期間、お子さんと会えない日を過ごすことになります。

困難を抱えながらも妊娠中胎児を守り、力を振り絞って出産し、できることなら自分で育てたいと願う母親を新生児と引き離してしまっている現状は、最善とは思えません。

年齢も生活状況も家庭背景も関係なく誰でも相談でき、妊娠中から出産後の暮らし、養育まで、どの場面でも一貫して寄り添ってくれる人がいる、支援を受けられる、そういう仕組みが必要だと思います。

妊娠中からの切れ目のない支援としてフィンランドの「ネウボラ」を理想とした取り組みが、各行政機関で実施されつつありますが、一歩踏み込み、住所がなくてもどんな状況でも、「妊娠しても必ず助けてもらえるから大丈夫」と安心してできる社会が実現できたらと願っています。

家庭支援専門相談員 ディウフ



家庭支援専門相談員の 立場から見えること

麻布乳児院で実習し、卒業と同時に保育士として麻布乳児院に就職。人事異動で家庭支援専門相談員の辞令を受けた時の驚きを今でもはっきりと覚えています。保育士として子どもたちの養育にあたっていた日々から一変し、児童相談所との連携、家庭支援専門相談員としての保護者との関わりとの難しさは何年経っても変わっていません。特に配慮が必要な保護者には出来る限り話を聞いて受け止め、寄り添っていきたいと思っています。

昨今の日本は出生率が過去最低となりました。しかし、乳児院には飛び込み出産による一時保護が増えている現状もあります。飛び込み出産にならないようにするために出来ることはなにか、社会全体で考えていく必要があると思っています。また、乳児院入所後の家庭復帰に向けて、母子生活支援施設との連携を強くし、母子家庭と同じように父子家庭への支援ももっと充実させる必要があるとも感じています。

乳児院の乳幼児ショートステイではレスパイトの利用が多いことから地域の子育てとして、より貢献しサービスを拡充させる役目もあります。そして乳児院という施設をもっと世間の方々に知って頂くことで出来る支援もあると信じ、実習生にはオリエンテーションと実習指導を通して、また保育士養成校において乳児院について話をする機会を頂いています。子どもを取り巻く支援の輪が広がり、安心して子育て出来る世の中にしていけるよう、これからも奮闘していきたいです。

※レスパイト：休息、息抜き

家庭支援専門相談員 松井

いつもと同じ電車でも乳幼児と一緒に乗るといかに自分が周りを意識していないかに気付かされます。至近距離にいる知らない人、大きなクシャミ、電車の通る音、広告のキャラクター、鞆についているキーホルダー、寝ている人……子どもは育つ過程で何にでも反応し、慣れ、理解し、平気になっていきます。

乳幼児を養育する人は私達にとって当たり前のことに子どもが適応していく過程に懸命に付き合っているのだと思います。乳幼児が私達と同じような感覚を身につけるには発達や繰り返しの応答で時間が経つのを待つしかありません。

子どもを育てる余裕のある人が少なくなっていると聞きます。経済的には確かにそうかもしれません。しかし、昔の人はよくやっていた、のでしょうか。時代と共に価値観が変わり、必要なこともかなり違っているはずです。超少子化社会が既に始まっている、ということは大人の手はきっとたくさん空いています。周りの大人が監視の目を向けるのではなく、養育をする人の味方でいてほしいと思います。その姿勢が伝わって初めて社会を、他人を頼る気になるのではないのでしょうか。家族以外の人自分が自分なりに味方である方法を見つけていくことが必要なのではないかと思います。

家庭支援専門相談員 志村

他人の在り方



養育支援指導員より

ともに考え続ける

養育支援指導員として勤務する中で、養育者から相談を受けることが多くあります。入所しているケースの多様化により、関わりが難しいと感じることもあり、向き合えば向き合うほど迷路に迷い込んでしまう養育者も少なくないです。少しでも前に進めるヒントに繋がればと思い、今までの乳児院での経験や子育て経験を活かして助言しています。私の考え方や養育が必ずしも良いとは限らない為、他の養育支援指導員にも相談をし、意見を仰ぐようにしています。伝えるべきことがあれば日々の養育の中で伝えていますが、それに加えて「総括」として良かったことや振り返って欲しいこと等を年度毎にまとめて、養育者に伝えていきます。

養育支援指導員として働くことは、自分自身にとっても日々新しい気付きと学びの場になっています。養育者自身の心がいつも元気で、より多く子どもたちと養育者の笑顔が増えてくれたら、という想いで日々取り組んでいます。

養育支援指導員 三分一

注：養育支援指導員とは：養育者育成のためのアドバイザーの役割。日々養育現場に入り、養育者の相談や悩み事に応じたり、子どもたちの活動や関わり方を一緒に考え提案することもあります。

こども達の何気ない日常 ひとコマ!

日々の食事編



おやつに食べるお菓子、
今日は子どもたちが
買いに行きました。
「どれにしようかな～」選ぶ時間もわくわく。

ワクワク

お買い物

一生懸命

おやつ作り



子どもたちは、ごはん作りも一生懸命。この日はおやつ作り。
子どもたちのリクエストで、フルーツホットケーキ。

まずは缶詰を開けて、果物を切って……、ホットケーキミックス
に卵と牛乳を混ぜたら……、ホットプレートで焼きます。

「私はバナナタワー!」思い思いに飾り付けをしたら、「いただき
まーす!」とびきり大きな声が響きました。



おっかな びっくり

初めての
メバル



この日は春が旬のメバル。メバルは「春
告魚」とも呼ばれています。

目が大きく見開いているメバルに最初は
おっかなびっくりの子どもたち。恐る恐るツン
ツンと触る子もいれば、慣れてきてチューをし
ようとする子も!

メバルを煮魚にして夕食に食べました。お
かわりして完食!

ボランティアの皆さまへ 感謝!

ニューバーガー・バーマン株式会社の皆様



今回、認定 NPO 法人 Hands On Tokyo さんを通じて、ニューバーガー・バー
マン株式会社の皆様が季節の色鮮やかなお花をたくさん持って、ボランティア
活動にお越し下さいました。

日中はぐんと気温が上がる春の日に、丁寧に雑草取りを行った後でお花を植
え、お庭が見違えるほど華やかになりました。

子どもたちは草花が大好き!お昼寝から起きた子どもたちも大喜びで、水やり
のお手伝いをさせてもらいました。

